

<概要>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の規定に基づき、昭和58年度に報告がなされた事故・故障の件数は5件であった。これら5件の事故、故障等を管理要素別に分類すると、施工管理が不適切であったものが1件、保守管理が不適切であったものが1件、操作が不適切であったものが2件、その他が1件であった。

<更新年月>

1999年08月 (本データは原則として更新対象外とします。)

<本文>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」(以下、「原子炉等規制法」という。)の規定に基づき、昭和58年度に報告がなされた事故・故障の件数は5件であった。これら5件の事故、故障等を管理要素別に分類すると、施工管理が不適切であったものが1件、保守管理が不適切であったものが1件、操作が不適切であったものが2件、その他が1件であった。また、これら5件の事故・故障等のうち、運転中に発生したものが2件、停止後に発見または発生したものが3件であった。

運転中に発生したものの2件は、付属実験設備の不具合に起因して自動停止したものが1件、サンプリング弁の操作不適切により1次系アルゴンガスが漏洩したものが1件であった。停止後に発見または発生したものは、燃料被覆材の不具合、照射済キャプセルの誤引き上げによる作業員の被曝、2次冷却系配管の不具合の3件であった。

なお、以上のいずれの事故・故障等においても、原子炉施設周辺環境への影響はなかった。

この他、昭和56年9月1日付け科学技術庁(現文部科学省)長官通達に基づき、報告があった軽微な故障が5件あった。

昭和58年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある原子炉施設における故障・トラブル等についての概要を表1に示す。

(原子炉等規制法に基づく報告)

<関連タイトル>

[原子力施設の故障・トラブル・事故の国際評価尺度 \(11-01-04-01\)](#)

[昭和58年度試験研究用原子炉における従事者被ばく状況 \(12-03-03-05\)](#)

<参考文献>

(1) 原子力安全委員会編(1984):昭和58年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和59年版原子力安全白書、289。

(2) 科学技術庁原子力安全局編(1984):昭和58年度の試験研究用原子炉及び研究開発段階にある原子炉における事故・故障等について、原子力安全委員会月報7月号、通巻10号、9。

表 1 昭和58年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある原子炉施設における故障・トラブル等についての概要

発生年月日	原子炉施設名	事故・故障等の概要
58. 7. 4	動燃大洗高速実験炉「常陽」	熱出力50MWで運転中1次アルゴンガスの定期サンプリングにおいてベント弁の不完全閉及び パージ弁の開により微量のアルゴンガスが漏洩し、格納容器空調換気モニターで警報が発生した。
58. 7.18	東京大学 弥生	定期自主検査中、燃料被覆材に突起状変形が生じていることが確認された。
58.12. 7	原研大洗 JMTR	定期自主検査中、水中に保管されていた照射済キャプセルを水誤って引上げ、作業員1名が1.15remの被曝を受けた。
58.12.13	立教大学研究用原子炉	運転前点検中、2次冷却系配管に亀裂が生じ 2次冷却水が漏出し、漏水モニターが作動した。
29. 3.21	原研大洗 JMTR	熱出力10MWで運転中、水中ラビット1号機の「循環水流量低」のセットバック信号に起因して、原子炉が自動停止した。

[出典]原子力安全委員会編(1984) : 昭和58年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和59年版原子力安全白書、289.